

全教栃木 教育新聞

教職員の協力・共同を破壊する 「教職員評価」の賃金リンクは認められない！

教職員課から2月24日と3月17日、職員団体に対して、「教職員評価」結果を勤労手当や昇給に反映させたいとの提案がありました。提案の具体的内容としては、「教職員評価」を5段階評価（S、A、B、C、D）にして、この評価結果を基に、さらに「選考」した上で勤労手当や昇給に反映させるというものです。これに合わせて「評価結果の開示」や「苦情相談制度」も設けるとしています。

廃止も視野に入れた協議を

私たちは「教職員評価」の実施について「廃止も視野に入れた協議を組合と行うこと。賃金リンクを行わないこと」を、県教委との交渉で要求してきました。特に組合との協議は「CEART（教員に関する勧告の適用にかかわるILO・ユネスコ共同専門家委員会）勧告」が文科省や各都道府県教育委員会に求めているからです。

この私たちの提案については、組合員ではない先生方も支持してくれるものと考えています。「教職員評価」の面談時期になると、「目標・成果」に何を、どのように書くか悩んでいる姿が多く見られます。初めの頃強く求められた「数値化」も、実情に合わないことが判明し、今ではさほど重要視はされてはいないでしょう。こうした事実から考えても、私たちは廃止を含めた協議を求めてきた

のです。

勤評は戦争への一里塚

現行制度でも勤務評定による昇給は行われています。現行の勤務評定が実施されるようになった理由について、山住正己（故人。元東京都立大学学長）氏は「勤評の最大のねらいもまた組合対策、組合の分断・弱体化にあったことは明らか」としています。（山住正己『日本教育小史』岩波新書、1987年）「組合の分断」＝教職員の分断であり、教職員の協力・共同を破壊するもので、その役割を十分に果たして来たことは論を待たないでしょう。なのになぜ賃金リンクまで行うのでしょうか。

現行制度導入までの歴史を振り返ってみます。

- 1947年 日本国憲法、教育基本法施行
- 1948年 教育委員会法（公選制教育委員会）
- 1950年 朝鮮戦争
- 1951年 日教組「教え子を再び戦場に送るな」の運動推進を決定
- 1954年 教育公務員法「改正」、教育の政治的中立の確保に関する臨時措置法制定
- 1955年 教科書問題 保守合同
- 1956年 教育委員会法廃止、地教行法制定
公選制から任命制教育委員会

全栃木教職員組合（全教栃木） 全日本教職員組合（全教）に加盟しています。
〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30 TEL 028-653-0353 FAX 028-653-1579
http://www.zenkyotcg.org E-mail info@zenkyotcg.org

- 1957年 愛媛県で勤務評定
- 1958年 特設道徳実施
- 1960年 安保闘争
- 1961年 全国学力テスト

こうしてまとめてみると、憲法・教育基本法の求める教育を、政治が骨抜きにしようとしてきたことがわかると同時に、そうした攻撃に対し、教育を尊重しようとした人たちの努力によって、その影響を小さくしてきたこともわかります。

また、この時期は朝鮮戦争や日米安保条約にかかわって、日本が戦争に巻き込まれる可能性が出てきた時期でもあります。「戦争ができる国」にするということも、ときの政治が求めたことだったから、また戦前の教育の反省に基づいて、「勤評は戦争への一里塚」というスローガンが叫ばれたのです。そして今、安倍内閣もまた集团的自衛権を行使して、「戦争のできる国」にしようとしています。この間教育界で行われてきていることは、当時行われたことと、なぜかほとんど同じなのです。

県教委の提案を否定し、完全に白紙に戻させることは法の裏付けもあり困難だと思えます。しかし現行勤務評定実施に対するたたかいから得た教訓の一つは「骨抜き」にしたことです。この教訓を、私たちはこれからの取り組みに可能な限り生かしていきたいと思えます。

17日の説明で、私たちは他の職員団体も含めた協議を行うよう強く求めました。団体によっては、すでに基本的な方針を打ち出してはいますが、それがその団体に属する教職員の総意とは思えません。教育の条理に立った要求を私たちはこれからも行って行きます。

教育条件改善を求める署名を提出



署名を提出する篠原章彦執行委員長（左）と署名を受け取る池田聖教職員課長。

私たちは2月24日、「教育予算の増額、父母負担軽減、教育条件の改善を実現して、すべての子どもたちにゆきとどいた教育を求める要請」署名3115筆を、県教委に提出しました。この署名は毎年取り組まれているものであり、各学校のPTAから送られてきたものも少なくありません。

提出の際の県教委との懇談では、県教委も少人数学級は何としても実現したいという考えが表明され、交渉とはちょっと違った雰囲気話で話されました。

春闘の要求書も

3月17日には「月額2万円以上」の賃上げを求める春闘要求書を提出しました。大手民間企業のベースアップや6か月を超える一時金支給が報じられています。賃上げは教職員の士気を高め、職場を明るくします。今後人事委員会などにも要求書を提出します。

教え子を再び戦場に送るな 30人学級を実現してゆきとどいた教育を 教員免許更新制を廃止させよう パワーハラスメント・長時間過密労働をなくそう

青年教職員が組合活動をすすめています

全栃木教職員組合には青年教職員の加入が相次いでいます。組合では青年教職員の要求に基づく活動や、主体的に取り組む活動が開かれています。そうした活動を紹介します。

輪・和・WA



2回目の「輪・和・WA」の様子。

組合青年部による2回目の「輪・和・WA」が1月5日に開催されました。今回は、青年部会議で参加している青年から意見を聞き、その学習要求に沿った学習会を組み立てることができました。

今回の学習会は2つ。

1つ目は、非常勤職員の実態について千葉県の徳田暁夫先生のお話を聞いた。船橋市はこの学習会の次の日から新学期が始まるにもかかわらず、徳田先生は熱い講義をしてくれました。臨時教職員は「正規教職員と同等の仕事をしているのに、保障されている権利がとても少ないという不条理な扱いを受けていること」、「県により、採用試験免除幅が大きく違うこと」等、資料をもとに、とても具体的に学ぶことができ、

教え子を再び戦場に送るな

30人学級を実現してゆきとどいた教育を

自分たちの問題として近づけて考えることができました。

学習会の2つめは、芳賀郡の中学校に勤務する養護教諭による、この時期ならではの「子どもが吐いたときの迅速かつ正確な対応」と題した講座。次亜塩素酸の濃度調整から処理手順まで、吐瀉物に見立てた豆腐を実際に自分たちがやってみることで、学校で処理をするイメージを持つことができました。養護教諭の不在時等にはとても役に立つことと思います。

その後の職場交流では、学校の様子や今年の抱負などさまざまな話題で盛り上がり、組合員の輪を再確認することのできる温かい時間が流れました。毎月行われている青年部会議で吸い上げた意見をもとに、このような学習会を作ることができたことは大きな成果でした。この取り組みを3回目の「輪・和・WA」につなげていきたいと思っていました。

河内小学校 岩崎明日香

組合員が合格体験談を語る

全栃木教職員組合は2月7日、宇都宮市文化会館で教員採用試験学習会を開催しました。この学習会でも青年組合員が司会を行い、合格体験談を語りました。この学習会に寄せられた感想を紹介します。

○合格した方々のとても参考になる話を聞き、自分は今以上に頑張る必要があるなと感じました。また、論作文の書き方も詳しく教えていただくことができ、とても身になりました。またの機会に、お世話になると思います。よろしくをお願いします。ありがとうございました。(小学校養護助手 女性)

○本日は作文や合格のために自分がすべきことを再確認することができました。教師という仕事を今後も続けていきたいと強く感じました。ありがとうございました。(中学校臨時教員 女性)



合格体験談を語る組合員。

○学校関係ではないにもかかわらず参加しました。他県で教員をやっている友達からは、学校現場のことや組合のことを聞いていたのですが、実際に今回のような手厚い対応に触れて、やっぱり大切なことだなと思いました。まだ栃木県を受けるかはわからないのですが、とても勉強になりました。自分との戦いですががんばりたいと思います。(行政 女性)

この学習会の参加者のうち、9名が組合に加入しました。

全国青年教職員学習交流集会“TANE!”

全日本教職員組合は青年教職員の学びの場として、毎年「全国青年教職員学習交流集会“TANE!”」を開催しています。今年は伊東温泉で開催されました。栃木からは2名の女性青年組合員が参加しました。この学習会では他の組織の組合員との交流も行われます。参加した組合員の感想を紹介します。

TANE!は2度目でしたが、前とは違った出会い、そして学びがありとても刺激を受けた2日間でした。今回、静岡の先生と仲良くなることができ、「また全国集会で会えるといいですね」などとお話することもできました。その先生は、昨年のTANE!で私が最後の感想発表をしたことを覚えていてくれて、こんな出会いもあるのかと嬉しくなりまし

た。最後に、この2日間で心がひとつになったことを形に表すべく、全体で「ハイゲームリベンジ」をおこないました。が、結果は変わらず…来年にまたリベンジです!(笑)伊東温泉も素敵だったし、元気注入完了。たくさん充電して帰って帰ることができました。

全教組合員というだけで仲間になれる、それが全教です。栃木でも一緒に働くみなさん、どうぞ私たちの仲間に加わってください。

教員免許更新制を廃止させよう

パワーハラスメント・長時間過密労働をなくそう